

FuzzyScan Family

クイックスタートガイド

- ITR-670 -

はじめに

PC Worth 社は、特定の用途のための商品性や適合性を保証しないことを含め、この資料に関してもいかなる保証も致しません。また、PC Worth 社は、この資料の提供、性能、使用に関して、この中に含まれた誤りや付带的、必然的な損害に対して責を負いません。

この資料は、著作権によって保護される知的財産情報を含んでいます。すべての権利を保有されています。この資料の一部であっても、PC Worth 社の書面による事前の許可がない限り、いかなる書式、電子情報検索システム、あるいは別の方法でも、写真複写、再編集、いかなる言語への翻訳をすることもできません。

© Copyright Cino Group

© Copyright PC Worth Int'l Co., Ltd

保証

PC Worth 社は、正常で適切な条件のもとで操作されている製品であれば、その製品の製造と材料における欠陥に対して出荷日から保証します。その保証条項と保証期間は、異なった保証プログラムにより提供されます。その保証は、次の項目の製品に対しては適用されません。(i) 間違った使用。(ii) 偶然または不注意による破損。(iii) 購入者または他の当事者による改造または変更。(iv) 非公式な代理店による修理または改造。(v) 操作または環境のパラメータの仕様を超える操作または格納。(vi) PC Worth 社によって提供されていないソフトウェア、アクセサリ、部品の使用。(vii) 電力による稲妻または変動(これに限定しないが)のような PC Worth 社の制御不能な環境による障害。

アイテックスは、障害のある製品が上記の条件を満たす場合、お客様が購入された日から1年間に限り無償で修理または交換いたします。それ以降は、有償で修理いたします。

取得規格



FCC part 15B



EN55022, EN55024, EN61000-3-2, EN61000-3-3
EN60950-1, EN61000-6-3, EN61000-6-2



CNS13438



AS/NZS CISPR 22:2009 Class B



KN22, KN24 (KN61000-2,-3,-4,-5,-6,-8,-11)

LED 安全規格

IEC62471 Exempt group

Laser 安全規格

IEC60825-1 Class 1



V-3/2011.04, TECHNICAL REQUIREMENTS,
Class B ITE

FuzzyScan について

Cino FuzzyScan バーコードスキャナをご利用いただき、ありがとうございます。すべての FuzzyScan スキャナは、お客様の生産性を活かす広い範囲の市場アプリケーションのために世界クラスの性能を提供いたします。

A770 で利用できる**抗菌**モデルには、消毒対応ケースやバイブレータが装備されています。さらに、要求に応じて**バイブレータ**のオプションは、すべての他のシリーズで利用可能です。

詳細については、弊社の Web サイトをご覧ください。販売店にお問い合わせください。

このドキュメントは、インストールや動作について簡単に説明するものです。完全なドキュメントについては、ウェブサイトより入手することができます。

<http://www.cino.com.tw>

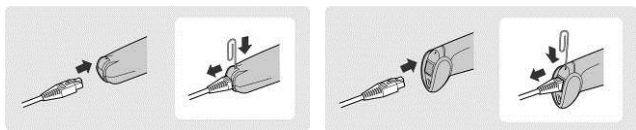
ITR-670各部の詳細



- | | |
|-----------|-------------|
| ① 電源表示 | ④ スキャンウィンドウ |
| ② ステータス表示 | ⑤ ビープ音 |
| ③ トリガ | ⑥ ケーブル取り外し穴 |

ホスト機器との接続

FuzzyScan スキャナは、USB、PS/2(DOS/V)キーボードウェッジ、RS-232 シリアル
のインタフェースをサポートしています。希望のインタフェース・ケーブルを選択し、
その後にスキャナのケーブル・インタフェース・ポートに差し込んで、ホストに接続し
てください。ケーブルを抜きたい場合は、クリップの端を真っすぐにして、その後に
ケーブルを引き抜くためのケーブル取り外し穴に挿入してください。



RS232 シリアル



PS/2(DOS/V) キーボードウェッジ



USB HID & USB COM



- **USB HID (Human Interface Device)**
スキャナは一般的な USB のキーボードとして動作します。
- **USB COM Port Emulation**
スキャナは、従来の RS232 シリアルデバイスとして動作します。使用する前に、
USB 仮想 COM ソフトウェアドライバをインストールする必要がありますのでご
注意ください。

スマートスタンドの使用について

スマートスタンドは、ユーザの快適さと生産性を最大限にするために、ハンズフリーアプリケーション用に特別に設計されたものです。ユーザは、最適なスキャンをするために、希望する位置にスキャナホルダーを調整できます。



自動検出設計のおかげで、スキャナは、スマートスタンドでの作業中にプレゼンテーションスキャンニングとハンドヘルドスキャンニングを自動的に切り替えることができます。

プレゼンテーションモードでは、周囲が非常に薄暗い照明環境では、バーコードがスキャナで検出されない場合があります。ユーザは、スキャナの感度を高めるために**プレゼンテーション感度**の設定で、より高い感度レベルを選択することができます。



A シリーズエリアイメージャをプレゼンテーションモードで使用する場合には、スキャナのプレゼンテーションバックグラウンドライトを、周囲の照明の状況によって切り替えることができます。周囲が薄暗い、または暗い場合に、以下の設定によってスキャナの LED イルミネーションを有効化することで明るさを増すことができます。これにより、スキャナが読み取り対象の動きを検出しやすくなります。



ホスト インタフェイス クイック設定



① RS232 シリアル



② Keyboard Replacement



③ PS/2 (DOS/V) KBW Standard Mode



④ PS/2 (DOS/V) KBW Turbo Mode



⑤ USB HID Standard Mode ◆
(初期値)



⑥ USB HID Turbo Mode



⑦ USB Com ポート エミュレーション

※ 注意 ※

工場出荷時に戻した場合
初期設定の英語キーボードに
戻ります。

(「キーボード レイアウト設定」参照)

「日本語キーボード」に設定する場合は、
③/④/⑤/⑥の何れかを読取後、
下記バーコードも読取下さい。



Japan (日本語)

USB 仮想 COM で利用される場合には専用のドライバが必要となります。
下記 URL よりダウンロード下さい。

<http://www.cino.com.tw/resources/download.html>

Software: USB VCOM Driver 32 Bit (WinXP/Vista/Win7/Win8 supported)
USB VCOM Driver 64 Bit (WinXP/Vista/Win7/Win8 supported)

*最新バージョン、ファイル名は随時変更される可能性があります。

詳しくは、弊社までお問合せ下さい。

動作モード

FuzzyScan ファミリの A シリーズは、トリガ、プレゼンテーション、アルタネイティブ、レベル、フォース、トグル、診断、低消費電力、そして複数読取のさまざまな動作モードをサポートしています。



トリガ モード ◆(初期値)

トリガ モードが選択されている場合、スキャナはバーコードを読み取りした後にスタンバイ状態になります。ユーザは、バーコードを読み取る前にスキャナの光源を発光するには、トリガスイッチを押す必要があります。



プレゼンテーション モード(自動検出)

プレゼンテーション モードが選択されている場合、バーコードのようなイメージを検出した時、自動的にスキャナは光源を発光し読み取り動作を開始します。スキャナがバーコードを検出できない場合、設定されている“光源発光時間”を過ぎると光源を消します。



アルタネイティブ モード(周期パワーオフ)

アルタネイティブ モードが選択されている場合、スキャナは設定されている“光源発光時間”が過ぎるまで発光を保持しています。スキャナは光源を消した後、再び光源を発光するには、トリガスイッチを押す必要があります。それぞれの読み取りの後に、“光源発光時間”のタイマーカウンタはリセットされます。ユーザは、頻繁にトリガを押す必要はなく、複数の読み取りをするのに非常に便利です。



レベル モード(自動パワーオフ)

レベル モードが選択されている場合、スキャナはバーコードが検出されるか、または設定されている“光源発光時間”が過ぎるまで光源を発光し続けます。バーコードが正常に読み取りされた場合、スキャナはすぐに光源を消します。スキャナは、光源を消した後で再び光源を発光するには、トリガスイッチを押す必要があります。設定されている“光源発光時間”の間にスキャン操作が行われない場合、スキャナは設定されている“光源発光時間”が過ぎた後に光源を消します。



フォース モード(継続パワーオン)

フォース モードが選択されている場合、スキャナの光源はトリガスイッチを押すことなく、強制的に継続して動作します。このモードは、高速でバーコードを読み取るのに便利です。



トグル モード(繰返し読み)

トグル モードが選択されている場合、読み取り操作を開始するためにスキャナの光源を発光するには、トリガスイッチを押す必要があります。スキャナは、再度トリガスイッチを押すまで発光を保持しています。このモードは、アルタネイティブ モードに非常に似ていますが、“光源発光時間”の心配がありません。



診断モード(テスト読み)

診断モードが選択されている場合、スキャナの光源は、再読み取りディレイや冗長性などのような他のプログラム可能なパラメータを無視して、強制的に発光します。



低消費電力モード

低消費電力モードが選択されている場合、スキャナはバーコードを読み取りした後アイドル状態になります。ユーザは、操作するためにスキャナを起動するには、トリガスイッチを押す必要があります。



複数読取モード

複数読取モードが選択されている場合、スキャナはトリガスイッチを押した場合に複数のバーコードを読み取ることができます。バーコードの集合に向けてトリガスイッチを押しつづけた場合、スキャナはバーコードの読み取りごとに読み取り成功のピープ音を鳴らします。より精密な読み取りをする場合には、このモードを選択中に**センターアライメント**機能を有効化しておくことをお勧めします。また、**ユニークバーコードレポーティング**機能を有効化することで、トリガスイッチを押し続けている間、同じバーコードを一度だけ読み取ることができます。これらの設定についての詳細は、「Programming Manual」をご参照ください。

キーボード インタフェイス クイック設定

◆初期設定

- サフィックス設定 -



None



RETURN ◆



TAB



SPACE



ENTER

- キーボード レイアウト設定 -



USA ◆



France



Germany



United Kingdom-UK



Canadian French



Spain (Spanish)



Spain (Latin America)



Netherlands



Japan (日本語)



Sweden/Finland

シリアル インタフェイス クイック設定

◆初期設定

- サフィックス設定 -



None



LF



TAB



CR ◆



CRLF



SPACE

- ボーレート設定 -



115.2K BPS



19.2K BPS



4800 BPS



57.6K BPS



9600 BPS ◆



2400 BPS



38.4K BPS



1200 BPS

- データフレーム設定 -



8, None, 1 ◆



8, None, 2



7, None, 2



8, Odd, 1



7, Odd, 1



7, Odd, 2



8, Even, 1



7, Even, 1



7, Even, 2



8, Space, 1



7, Space, 1



7, Space, 2



8, Mark, 1



7, Mark, 1



7, Mark, 2

システム コマンド



システム情報



PowerTool ホストリンク



工場出荷時



マスタ デフォルト



ユーザ デフォルト



ユーザ デフォルトの保存

システム コマンド



PROGRAM: 設定開始
(プログラミングモード開始)



END: 設定終了
(プログラミングモード終了)

オプション コード



0



1



2



3



4



5



6



7



8



9



A



B



C



D



E



F



FIN (Finish): 終了

キーボード インタフェイス 設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
キーボード レイアウト 	米国 ◆ フランス ドイツ イギリス カナダ スペイン スウェーデン/フィンランド ポルトガル ノルウェー	ラテンアメリカ イタリア オランダ デンマーク ベルギー スイス・ドイツ アイスランド 日本 チェコ	00 01 02 03 04 05 06 07 08	09 10 11 12 13 14 15 16 17
サフィックス 	なし RETURN ◆ TAB SPACE	ENTER ユーザ定義文字	0 1 2 3	4 5
前置文字 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
後置文字 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
メッセージ間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
キャラクタ間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
ファンクション間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
Caps Lock 設定 	"Caps Lock" オフ ◆ "Caps Lock" オン 自動検出		0 1 2	
Caps Lock 解除 設定 	"Caps Lock On, Caps Off" ◆ "Caps Lock On, Shift Off"		0 1	
Func. Key エミュレーション 	Enable ASCII 00-31 as KB function code output ◆ Enable ASCII 00-31 as Ctrl-xx output		0 1	
キーパッド エミュレーション 	無効 ◆ 有効、キーパッド出力として数値出力する		0 1	
大文字 / 小文字 	標準文字 ◆ 大文字/小文字 反転 大文字 小文字		0 1 2 3	

シリアル インタフェイス 設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
STX/ETX 設定 	STX/ETX 送信 無効 ◆ STX/ETX 送信 有効		0 1	
サフィックス 	なし CR ◆ LF CRLF	TAB SPACE ユーザ定義文字	0 1 2 3	4 5 6
前置文字 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
後置文字 	なし ◆ 1-15 文字		FIN [00-7F], [FIN]	
ハンドシェイク プロトコル 	なし ◆ RTS/CTS ACK/ NAK Xon/Xoff		0 1 2 3	
メッセージ間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
キャラクタ間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
ファンクション間ディレイ 	なし ◆ 1-99 (x5) msec.		FIN (2 桁)	
シリアル応答 タイムアウト 	なし 200 msec. 500 msec. ◆ 800 msec. 1 sec. 2 sec.	3 sec. 4 sec. 5 sec. 8 sec. 10 sec. 15 sec.	0 1 2 3 4 5	6 7 8 9 A B
NAK リトライ カウント 	3 回 ◆ 0~255 回		FIN (3 桁)	

メッセージ文字列の内容

キーボード インタフェイスの出力(PS / 2、DOS / V、USB HID)

前置文字	データ長	Prefix ID	読取データ	Suffix ID	後置文字	サフィックス
1-15 char.	2-3 digits	1 or 3 char.	Variable	1 or 3 char.	1-15 char.	1 char.

シリアル インタフェイスの出力(RS-232、USB COM ポート エミュレーション)

STX	前置文字	データ長	Prefix ID	読取データ	Suffix ID	後置文字	ETX	サフィックス
1 char.	1-15 char.	2-3 digits	1 or 3 char.	Variable	1 or 3 char.	1-15 char.	1 char.	1 char.

動作および出力コントロール

◆工場出荷時のデフォルト設定

コマンド	パラメータ選択		オプションコード	
読取ブザー音程 	ミュート 低 中 ◆ 高 最高 ブザー音量の調整ではありません		0 1 2 3 4	
	電源 ON ビープ音あり ◆ 電源 ON ビープ音なし		5 6	
	反転読取 		無効 ◆ 有効	
	冗長性 		なし Level 1 ◆ Level 2 Level 3 Level 4 Level 5 誤読を防止するための設定	
電源 ON 表示 	無効 (LED オフ) LED 点灯 ◆ LED 点滅		0 1 2	
	読取成功表示 		無効 有効 ◆	
	読取確認ディレイ 		なし ◆ 200 msec. 500 msec. 1 sec. 1.5 sec. 2 sec. 3 sec.	
	読取確認時間 		短 中 ◆ 長 最長 最短	
光源発光時間 	短 中 長 ◆ 最長		0 1 2 3	
	再読取ディレイ 		無効 最短 ◆ 短 中 長 再読取しない 一度の発光で同じバーコードを再読取するまでの時間	
	ハンドフリー タイムアウト 		短 ◆ 中 長 最長 無効 トリガを押した際にトリガモードとして動作する時間	
			0 1 2 3 4	

キーボード ファンクション コード表

No.	ANSI	ASCII	Key Function	Ctrl Output	No.	ANSI	ASCII	Key Function	Ctrl Output
00	NUL	00H	RESERVED	Ctrl + @	16	DLE	10H	F7	Ctrl + P
01	SOH	01H	CTRL (Left)	Ctrl + A	17	DC1	11H	F8	Ctrl + Q
02	STX	02H	ALT (Left)	Ctrl + B	18	DC2	12H	F9	Ctrl + R
03	ETX	03H	SHIFT	Ctrl + C	19	DC3	13H	F10	Ctrl + S
04	EOT	04H	CAPS LOCK	Ctrl + D	20	DC4	14H	F11	Ctrl + T
05	ENQ	05H	NUM LOCK	Ctrl + E	21	NAK	15H	F12	Ctrl + U
06	ACK	06H	ESC	Ctrl + F	22	SYN	16H	INS (Insert) (Edit)	Ctrl + V
07	BEL	07H	F1	Ctrl + G	23	ETB	17H	DEL (Delete) (Edit)	Ctrl + W
08	BS	08H	BACK SPACE	Ctrl + H	24	CAN	18H	HOME (Edit)	Ctrl + X
09	HT	09H	TAB	Ctrl + I	25	EM	19H	END (Edit)	Ctrl + Y
10	LF	0AH	F2	Ctrl + J	26	SUB	1AH	PAGE UP (Edit)	Ctrl + Z
11	VT	0BH	F3	Ctrl + K	27	ESC	1BH	PAGE DOWN (Edit)	Ctrl + [
12	FF	0CH	F4	Ctrl + L	28	FS	1CH	UP (Edit)	Ctrl + \
13	CR	0DH	ENTER (CR)	Ctrl + M	29	GS	1DH	DOWN (Edit)	Ctrl +]
14	SO	0EH	F5	Ctrl + N	30	RS	1EH	LEFT (Edit)	Ctrl + 6
15	SI	0FH	F6	Ctrl + O	31	US	1FH	RIGHT (Edit)	* see note



Ctrl Output 欄の最後の文字 (No.31) は、国によって異なります。

HEX/ASCII リファレンス表

H \ L	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	SPACE	0	@	P	`	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{
C	FF	FS	,	<	L	\	l	
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL



Example: ASCII "A" → HEX "41"; ASCII "a" → "61"

■ : High Byte of HEX Value □ : Low Byte of HEX Value

バーコード プログラミング メニュー

FuzzyScan をプログラミングするために、システムコマンド、ファミリコード、そしてオプションコードがあります。

システムコマンド

システムコマンドは、プログラミングモードの開始(PROGRAM)、プログラミングモードの終了(EXIT)、システム情報の一覧表示(SYSLIST)、工場出荷時の構成に戻す(M_DEFAULT)など、FuzzyScan に即座に操作の実行を指示する最高レベルのバーコードコマンドです。すべてのシステムコマンドは、操作が完了するまでに数秒かかりますので、ご注意ください。別のバーコードをスキャンする場合は、完了のピープ音を待つ必要があります。

ファミリコード

ファミリコードは、希望するプログラミングファミリを選択するのにスキャンされます。FuzzyScan は、特定の要件を満たすために、あらかじめ 100 以上のプログラミングファミリを提供しています。

オプションコード

オプションコードは、“0-9”、“A-F”、そして終了(FIN)で表されるバーコードコマンドのセットです。ほとんどの設定は、選択したプログラミングファミリのための必要なパラメータを設定するために、ファミリコードの選択後に少なくとも 1 つのオプションコードを選択する必要があります。

プログラミングの手順

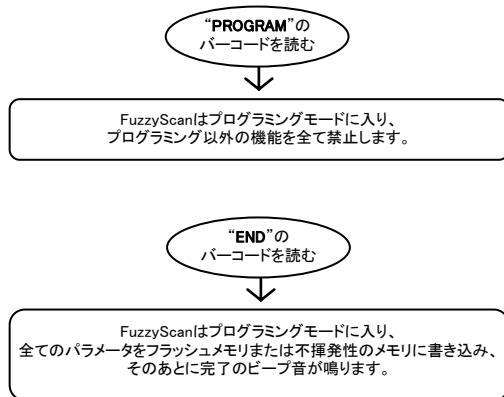
設定されたパラメータは、FuzzyScan の内部フラッシュメモリ ASIC、または非揮発性メモリに格納されています。ユニットの電源をオフにした場合でも、フラッシュメモリ ASIC、または非揮発性メモリにパラメータが保持されますので、次の電源投入時に再プログラムする必要はありません。

FuzzyScan のプログラミング手順は、設定を簡単にするために可能な限りシンプルに設計されています。ほとんどのプログラミングファミリは、**シングルスキャン選択**のプログラミング方法を取ります。しかし、いくつかのプログラミングファミリは、より複雑かつ柔軟なプログラム可能なオプションがあり、ユーザはプログラミング手順を完了するために、**マルチスキャン選択**を行う必要があります。各種のプログラミングの手順は、以下のページに記載されています。

プログラミングメニューの項目について

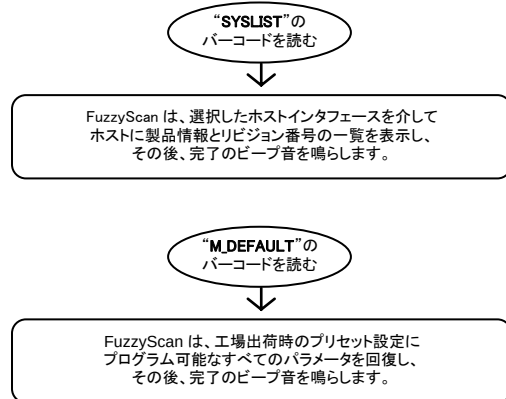
項目	説明
◆	工場出荷時設定(初期設定値)
P.C.	プログラミング カテゴリ(種別) SS: シングルスキャン選択 (Single scan selection) MS: マルチスキャン選択 (Multiple scan selection)
()	必須オプションコード
[]	選択オプションコード

スキャナの設定開始と設定終了方法



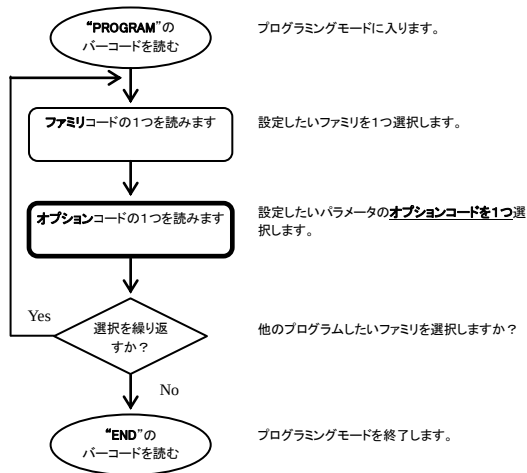
 ユーザーが“END”をスキャンした後、FuzzyScan は内部フラッシュメモリ ASIC、または不揮発性メモリ内にパラメータを格納するのに 3-4 秒かかりますのでご注意ください。完了のピープ音が鳴る前に、**電源をオフ**にしないでください。すべての構成パラメータを破壊する恐れがあります。

システム リスト, グループ & マスタデフォルト

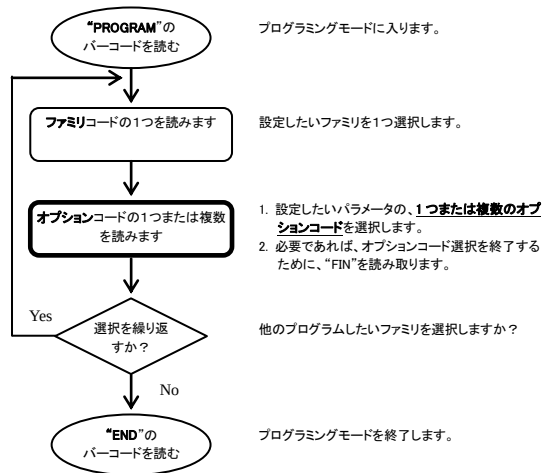


スキャナ設定手順

シングルスキャン選択(SS)の場合



マルチスキャン選択(MS)の場合



設定例

シングルスキャン選択(SS)の場合

＜Code39 スタート/ストップキャラクタを送信する＞

※初期設定は送信しません。



①PROGRAM(プログラミングモード開始)



②Code39 ファミリ設定



③6 (オプションコード)

パラメータ選択よりオプションコードとして“6”に設定しますと、
Code39 のスタート/ストップキャラクタを送信する設定となります。



④END(プログラミングモード終了)

マルチスキャン選択(MS)の場合

＜Code128 最小読取桁数を設定する＞

※初期設定は 1 桁



① PROGRAM(プログラミングモード開始)



② Code128 最小桁数設定



③ 8 (オプションコード)

1 から 99 桁まで設定することができます。8 桁に設定します。



④ FIN (Finish: 終了)



⑤ END(プログラミングモード終了)



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Code 39/Code 32 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Code 39 ファミリー設定 オプションコード[4][7][8]は省略。 詳しくは、「Programming Manual」を ご参照ください。	SS	Code 39 読取の無効	0
	SS	Code 39 読取の有効 ◆	1
	SS	Standard Code 39 を主要フォーマットとして選択 ◆	2
	SS	Full ASCII Code 39 を主要フォーマットとして選択	3
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	5
	SS	スタート/ストップコードを出力する	6
	SS	MOD 43 チェックデジットの照合を無効 ◆	9
	SS	MOD 43 チェックデジットの照合を有効	A
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	B
	SS	チェックデジットを出力する	C
	SS	Code 39 のバッファリング (結合読取) を無効 ◆	D
	SS	Code 39 のバッファリング (結合読取) を有効	E
Code 39 最小桁数設定 	SS	初期値 (01) ◆	FIN (2 桁)
	MS	01～最大桁 オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	
Code 39 最大桁数設定 	SS	初期値 (98) ◆	FIN (2 桁)
	MS	98～最小桁 オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	

「Trioptic Code 39」と「Code 39 Full ASCII」は、同時に有効にすることはできません。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Code 39/Code 32 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Code 39 セキュリティレベル 	SS SS SS SS	レベル 0 レベル 1 レベル 2 ◆ レベル 3	0 1 2 3

•Code 39 セキュリティレベル

スキャナは、Code39 バーコードに 4 つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: 印刷不良や深刻な規格外で誤読が発生している場合。レベル 1 のバーコードは、レベル 0 を選択してください。

レベル 1: 印刷不良や規格外で誤読が発生している場合。レベル 2 のバーコードは、レベル 1 を選択してください。

レベル 2: スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。規格内の Code 39 バーコードに十分なセキュリティを提供します。

レベル 3: 印刷不良や規格外で読取りに失敗した場合。レベル 2 のバーコードは、レベル 3 を選択してください。これは、最もアグレッシブな設定のため、誤読を高める可能性があります。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Codabar/NW-7 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Codabar 設定 	SS	Codabar の読取を無効	0
	SS	Codabar の読取を有効 ◆	1
	SS	Codabar standard format の読取を選択 ◆	2
	SS	Codabar ABC format の読取を選択	3
	SS	Codabar CLSI format の読取を選択	4
	SS	Codabar CX format の読取を選択	5
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	6
	SS	ABCD/ABCD スタート/ストップコードを出力する	7
	SS	abcd/abcd スタート/ストップコードを出力する	8
	SS	ABCD/TN*E スタート/ストップコードを出力する	9
	SS	abcd/tn*e スタート/ストップコードを出力する	A
	SS	チェックデジットの照合を無効 ◆	B
	SS	チェックデジットの照合を有効	C
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	D
	SS	チェックデジットを出力する	E
Codabar チェックデジット設定 	SS	Modulus 16 を使用 ◆	0
	SS	Modulus 10/weight 3 を使用	1
	SS	Modulus 11 を使用	2
	SS	Modulus 10/weight 2 を使用	3
	SS	7 check DR を使用	4
	SS	Weight Modulus 11 を使用	5
	SS	Runes (Modulus 10/weight 2) を使用	6



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Codabar/NW-7 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Codabar 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (04) ◆ 01～最大桁 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
Codabar 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)



プログラム開始

シンボル読取設定 ◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
UPC ファミリ設定 	SS	UPC-A の読取を無効	0
	SS	UPC-A の読取を有効 ◆	1
	SS	UPC-E の読取を無効	2
	SS	UPC-E の読取を有効 ◆	3
	SS	UPC-E expansion の読取を無効 ◆	4
	SS	UPC-E expansion の読取を有効	5
	SS	UPC standardization の読取を無効 ◆	6
	SS	UPC standardization の読取を有効	7
	SS	UPC numeric system の読取を無効	8
	SS	UPC numeric system の読取を有効 ◆	9
	SS	UPC-A のチェックデジットを出力しない	A
	SS	UPC-A のチェックデジットを出力する ◆	B
	SS	UPC-E のチェックデジットを出力しない	C
	SS	UPC-E のチェックデジットを出力する ◆	D
	SS	UPC "leading 1" portion の読取を無効 ◆	E
	SS	UPC "leading 1" portion の読取を有効	F

- UPC-E expansion を有効にすると、UPC-E の読取りデータは、UPC-A フォーマットに変換され、UPC standardization、UPC numeric system、UPC-A check digit transmission のような関連する設定に影響します。
- UPC-E & EAN-8 Expansion : 8 桁の UPC-E を 12 桁の UPC-A に、8 桁の EAN-8 を 13 桁の EAN-13 に拡張します。
- UPC-A Standardization : 12 桁の UPC-A を 1 つゼロを挿入した 13 桁の EAN-13 に拡張します。
- UPC Lead 1 Numeric System : UPC leading with the 1 numeric system の読み取りを行うためには、このオプションを有効にする必要があります。
有効にすると先頭が"1"の場合に UPC として認識し、無効にすると UPC として認識しません。

WPC Selection (UPC/EAN/CAN)	Basic Length	Disable Check Digit	Disable Numeric System	With 2-digit Addendum	With 5-digit Addendum	Enable Standardization	Enable Expansion
UPC-A	12	- 1	- 1	+ 2	+ 5	+ 1	0
UPC-E	8	- 1	- 1	+ 2	+ 5	+ 1	+ 4
EAN-13	13	- 1	NC	+ 2	+ 5	NC	0
EAN-8	8	- 1	NC	+ 2	+ 5	NC	+ 5



プログラム開始

シンボル読取設定 ◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
UPC サプリメント設定 	SS	サプリメントなしの UPC を読取る ◆	0
	SS	2 桁のサプリメント付きの UPC のみを読取る	1
	SS	5 桁のサプリメント付きの UPC のみを読取る	2
	SS	2 桁または 5 桁のサプリメント付きの UPC を読取る	3
	SS	サプリメントなしでも読取る ◆	4
	SS	サプリメント付きのみ読取る	5
	SS	UPC Family Addenda Separator を使用しない ◆	6
	SS	UPC Family Addenda Separator を使用する	7
UPC/EAN セキュリティレベル 	SS	レベル 0	0
	SS	レベル 1 ◆	1
	SS	レベル 2	2
		UPC-A と EAN-13 のみ使用可能	

・UPC/EAN セキュリティレベル

スキャナは、UPC/EAN バーコードに 3 つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: 印刷不良や規格外で誤読が発生している場合。特にレベル 1 で 1、2、7、そして 8 の文字の場合、レベル 0 を選択してください。このセキュリティレベルの選択は大幅にスキャナのデコード能力を損なうおそれがあります。

レベル 1: スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。規格内の UPC/EAN バーコードに十分なセキュリティを提供します。

レベル 2: レベル 1 で印刷不良や規格外で読取りに失敗した場合は、レベル 2 を選択してください。これは、最もアグレッシブな設定のため、誤読の可能性を高めます。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ UPC-A & UPC-E 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Supplement Scan Voting 	SS	なし	0
	SS	レベル 1	1
	SS	レベル 2	2
	SS	レベル 3 ◆	3
	SS	レベル 4	4
	SS	レベル 5	5
	SS	レベル 6	6
	SS	レベル 7	7
	SS	レベル 8	8
	SS	レベル 9	9
	SS	レベル 10	A
	SS	レベル 11	B
	SS	レベル 12	C
	SS	レベル 13	D

・**Supplement Scan Voting** とは、送信される前に同じ 2 桁または 5 桁のサブリメント付き UPC/EAN が読み取られた回数です。これは、サブリメント付きとサブリメントなしの UPC/EAN が混在している場合の読み取りに便利です。この機能は、2 桁のサブリメント付き UPC/EAN、5 桁のサブリメント付き UPC/EAN、2 桁または 5 桁のサブリメント付き UPC/EAN を選択した場合にのみ有効です。デフォルト設定は、レベル 3 です。より高いレベルを選択すると、印刷不良、低コントラストや損傷のあるバーコードラベルの読取速度に影響を与える可能性があります。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ EAN 設定, EANサブリメント設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
EAN 設定 	SS	EAN-13 の読取を無効	0
	SS	EAN-13 の読取を有効 ◆	1
	SS	EAN-8 の読取を無効	2
	SS	EAN-8 の読取を有効 ◆	3
	SS	EAN-8 expansion の読取を無効 ◆	4
	SS	EAN-8 expansion の読取を有効	5
	SS	EAN-13 のチェックデジットを出力しない	6
	SS	EAN-13 のチェックデジットを出力する ◆	7
	SS	EAN-8 のチェックデジットを出力しない	8
	SS	EAN-8 のチェックデジットを出力する ◆	9
	SS	ISBN/ISSN に変換しない ◆	A
	SS	ISBN/ISSN に変換する	B
EAN サブリメント設定 	SS	サブリメントなしの EAN を読取る ◆	0
	SS	2 桁のサブリメント付きの EAN のみを読取る	1
	SS	5 桁のサブリメント付きの EAN のみを読取る	2
	SS	2 桁または 5 桁のサブリメント付きの EAN を読取る	3
	SS	サブリメントなしでも読取る ◆	4
	SS	サブリメント付きのみを読取る	5
	SS	EAN Addenda Separator を使用しない ◆	6
	SS	EAN Addenda Separator を使用する	7



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ EAN 設定, EAN サプリメント設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Supplement Scan Voting 	SS	なし	0
	SS	レベル 1	1
	SS	レベル 2	2
	SS	レベル 3 ◆	3
	SS	レベル 4	4
	SS	レベル 5	5
	SS	レベル 6	6
	SS	レベル 7	7
	SS	レベル 8	8
	SS	レベル 9	9
	SS	レベル 10	A
	SS	レベル 11	B
	SS	レベル 12	C
	SS	レベル 13	D

・**Supplement Scan Voting** とは、送信される前に同じ 2 桁または 5 桁のサプリメント付き UPC/EAN が読み取られた回数です。これは、サプリメント付きとサプリメントなしの UPC/EAN が混在している場合の読み取りに便利です。この機能は、2 桁のサプリメント付き UPC/EAN、5 桁のサプリメント付き UPC/EAN、2 桁または 5 桁のサプリメント付き UPC/EAN を選択した場合にのみ有効です。デフォルト設定は、レベル 3 です。より高いレベルを選択すると、印刷不良、低コントラストや損傷のあるバーコードラベルの読取速度に影響を与える可能性があります。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ EAN 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
UPC/EAN セキュリティレベル 	SS	レベル 0	0
	SS	レベル 1 ◆	1
	SS	レベル 2	2
		UPC-A と EAN-13 のみ使用可能	
EAN サプリメント コントロール 	SS	なし ◆	0
	SS	全てのサプリメントを読取る	1
	SS	先頭が "491" のサプリメントを読取る	2
	SS	先頭が "978 / 979" のサプリメントを読取る	3
	SS	先頭が "977" のサプリメントを読取る	4
	SS	先頭が "378 / 379" のサプリメントを読取る	5
	SS	先頭が "414 / 419" のサプリメントを読取る	6
	SS	先頭が "434 / 439" のサプリメントを読取る	7

・UPC/EAN セキュリティレベル

スキャナは、UPC/EAN バーコードに3つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル 0: 印刷不良や規格外で誤読が発生している場合。特にレベル 1 で 1、2、7、そして 8 の文字の場合、レベル 0 を選択してください。このセキュリティレベルの選択は大幅にスキャナのデコード能力を損なうおそれがあります。

レベル 1: スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。規格内の UPC/EAN バーコードに十分なセキュリティを提供します。

レベル 2: レベル 1 で印刷不良や規格外で読取りに失敗した場合は、レベル 2 を選択してください。これは、最もアグレッシブな設定のため、誤読の可能性を高めます。

・EAN サプリメント コントロール

2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を選択し、「先頭が "491" のサプリメントを読取る」を有効にした場合、スキャナは "491" で始まる 2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を送信します。サプリメントなしの EAN の場合は、送信されません。

2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を選択し、「先頭が "491" 以外のサプリメントを読取る」を有効にした場合、スキャナは特定の先頭で始まる 2 桁、5 桁、2 桁または 5 桁のサプリメント付き EAN を送信します。サプリメントなしの EAN の場合は、送信されます。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ IATA & Interleaved 2 of 5 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
IATA 設定 	SS	IATA の読取を無効 ◆	0
	SS	IATA の読取を有効	1
	SS	15 桁固定長の IATA を読取る ◆	2
	SS	可変長の IATA を読取る	3
	SS	チェックデジットを照合しない ◆	4
	SS	自動的にチェックデジットの照合を行う	5
	SS	S/N のみの照合を行う	6
	SS	CPN のみの照合のみ行う	7
	SS	CPN, Airline および S/N の照合を行う	8
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	9
	SS	チェックデジットを出力する	A
	SS	スタート/ストップコードを出力しない ◆	B
	SS	スタート/ストップコードを出力する	C
Interleaved 2 of 5 設定 	SS	Interleaved 2 of 5 の読取を無効	0
	SS	Interleaved 2 of 5 の読取を有効 ◆	1
	SS	Interleaved 2 of 5 を主要フォーマットとする ◆	2
	SS	German Postal Code を主要フォーマットとする	3
	SS	チェックデジットを使用しない ◆	4
	SS	USS チェックデジットを照合	5
	SS	OPCC チェックデジットを照合	6
	SS	チェックデジットを出力しない ◆	7
	SS	チェックデジットを出力する	8



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Code 128 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Code 128 設定 	SS SS SS SS	Code 128 の読取を無効 Code 128 の読取を有効 ◆ ISBT 連結を使用しない ◆ ISBT 連結を使用する	0 1 2 3
Code 128 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
Code 128 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
Code 128 セキュリティレベル 	SS SS	レベル 0 レベル 1 ◆	0 1

•Code 128セキュリティレベル

スキャナは、Code128バーコードに2つのレベルのデコードセキュリティを提供しています。

レベル0: 印刷不良や規格外で誤読が発生している場合。レベル1の場合、レベル0を選択してください。

レベル1: 規格内のCode128バーコードに十分なセキュリティを提供しながら、スキャナが最も速く読取りができるデフォルト設定です。



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ GS1-128 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
GS1-128 設定 	SS SS	GS1-128 の読取を無効 GS1-128 の読取を有効 ◆	0 1
GS1-128 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁 オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)
GS1-128 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (98) ◆ 98～最小桁 オプションコードから 2 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (2 digits)



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ GS1 DataBar 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
GS1 DataBar 設定 	SS	GS1 DataBar (RSS-14)の読取を無効	0
	SS	GS1 DataBar (RSS-14)の読取を有効 ◆	1
	SS	GS1 DataBar Limited の読取を無効	2
	SS	GS1 DataBar Limited の読取を有効 ◆	3
	SS	GS1 DataBar Expanded の読取を無効	4
	SS	GS1 DataBar Expanded の読取を有効 ◆	5
GS1 DataBar 最小桁数設定 	SS	初期値 (04) ◆	FIN (2 digits)
	MS	01～最大桁 GS1 Databar Expanded のみ使用可能。 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	
GS1 DataBar 最大桁数設定 	SS	初期値 (74) ◆	FIN (2 digits)
	MS	74～最小桁 GS1 Databar Expanded のみ使用可能。 オプションコードから2桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Composite Codes, Codablock F PDF417/MicroPDF417 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Composite Codes 設定 	SS SS SS SS	Composite Code の読取を無効 ◆ Composite Code の読取を有効 UPC Composite Mode: UPC never linked UPC Composite Mode: UPC always linked UPC Composite Mode: UPC never linked を選択した場合、UPC コードは MicroPDF417 を認識しているかどうかに関係なく出力されます。 UPC Composite Mode: UPC always linked を選択した場合、UPC コードは MicroPDF417 を認識した時に出力されます。	0 1 2 3
Codablock F 設定 	SS SS	無効 ◆ 有効	0 1
PDF417/Micro PDF417 設定 	SS SS SS SS	PDF417 の読取を無効 PDF417 の読取を有効 ◆ MicroPDF417 の読取を無効 ◆ MicroPDF417 の読取を有効	0 1 2 3



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ QR Code 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
QR Code 設定 	SS SS	QR Code の読取を無効 QR Code の読取を有効 ◆ MicroQR Code の読取を無効 MicroQR Code の読取を有効 ◆ 連結 QR Code の読取を無効 連結 QR Code の読取を有効 ◆ QR Code の反転読取を無効 ◆ QR Code の反転読取を有効 自動的に反転読取を行う	0 1 2 3 4 5 6 7 8
QR Code 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
QR Code 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (7089) ◆ 7089～最小桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)



プログラム開始

シンボル読取設定

◆ Data Matrix 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Data Matrix 設定 	SS SS SS SS SS SS SS SS	Data Matrix の読取を無効 Data Matrix の読取を有効 ◆ Data Matrix の反転読取を無効 Data Matrix の反転読取を有効 自動的に反転読取を行う ◆ Data Matrix の左右反転読取を無効 Data Matrix の左右反転読取を有効 自動的に反転読取を行う ◆	0 1 4 5 6 7 8 9
Data Matrix 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
Data Matrix 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (3116) ◆ 3116～最小桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)



プログラム開始

シンボル読取設定 ◆ Aztec Code 設定 ◆



プログラム終了

ファミリーコード	種別	パラメータ	オプションコード
Aztec Code 設定 	SS SS	Aztec Code の読取を無効 Aztec Code の読取を有効 ◆	0 1
Aztec Code 最小桁数設定 	SS MS	初期値 (01) ◆ 01～最大桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)
Aztec Code 最大桁数設定 	SS MS	初期値 (3832) ◆ 3832～最小桁 オプションコードから 4 桁スキャンすると、自動的に選択を終了します。	FIN (4 digits)

設定のリセット

“工場出荷時設定”コマンドをスキャンすると、スキャナの全ての設定が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。この時、ホスト接続の設定(p.5 参照)も同時にデフォルト設定の“USB HID Standard Mode”にリセットされますので、必要であれば、再びスキャナを使用する際にホスト接続を再設定してください。

“マスタ デフォルト”コマンドをスキャンすると、スキャナの設定が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされますが、ホスト接続の設定など、一部の設定は保持されたままになります。保持される設定については以下の通りです。

- ・ホスト接続の設定 (p.5 参照)
- ・インタフェイス設定 (p.8-9, p.12-13 参照)
- *STX/ETX 設定、サフィックス、前置文字、後置文字を除く

ユーザ デフォルトの設定を利用すると、ユーザ任意の設定をデフォルト設定として保存することができます。“ユーザ デフォルトの保存”コマンドをスキャンすると、現在のスキャナの設定がユーザ デフォルトとしてスキャナ内部に保存されます。その後、“ユーザ デフォルト”コマンドをスキャンすると、スキャナの設定が保存されたユーザ デフォルト設定にリセットされます。保存されたユーザ デフォルトは、“ユーザ デフォルトの保存”コマンドをスキャンすると上書きされます。



工場出荷時設定



マスタ デフォルト



ユーザ デフォルトの保存



ユーザ デフォルト

FuzzyScan Family
クイックスタートガイド
ITR-670

2017 年 8 月 3 日 初版第 1 刷発行

発行 株式会社アイテックス
〒111-0041
東京都台東区元浅草1-6-13
元浅草MNビル6階

URL: <http://www.j-itecs.co.jp/>

落丁・乱丁は、お取り替えいたします。